

第 5 回 日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場用地選定検討委員会 議事要旨

日時：令和 4 年 6 月 1 日（水） 13:30～15:50

場所：門川町役場 3 F 会議室

■ 出席者

- (1) 委員
- | | |
|-------|---------------------|
| 土手 裕 | (宮崎大学工学部教授) |
| 大榮 薫 | (宮崎大学工学部准教授) |
| 佐伯 雄一 | (宮崎大学農学部教授) |
| 山田 大志 | (NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク) |
| 菊田 正光 | (美郷町区長会長) |
| 甲斐 弘昭 | (諸塚村自治公民館連絡協議会会長) |
- (2) 事務局
- | | |
|-------|----------------------|
| 黒木 秀樹 | (広域連合 副長) |
| 鈴木 道雄 | (日向市 環境政策課 課長) |
| 甲斐 正修 | (門川町 環境水道課 課長) |
| 田村 靖 | (美郷町 町民生活課 課長) |
| 甲斐 一喜 | (諸塚村 住民福祉課 課長) |
| 黒木 治実 | (椎葉村 税務住民課 課長) |
| 吉田 健二 | (広域連合 事務局長) |
| 田中 美利 | (広域連合 局長補佐兼業務第 2 係長) |
| 黒木 裕也 | (広域連合 業務第 1 係長) |
| 尾前 貴大 | (広域連合 業務第 1 係主査) |
- (3) コンサルタント
- | | |
|-------|---------------|
| 林 正樹 | (株式会社建設技術研究所) |
| 池田 勇太 | (株式会社建設技術研究所) |
| 梁田 雄太 | (株式会社建設技術研究所) |

(以上、敬称略)

■ 内容

- 1 開会
- 2 委員の紹介
- 3 あいさつ（委員長）
- 4 協 議（議事進行：委員長）
 - （1）前回委員会の確認
 - （2）令和4年度スケジュールについて
 - （3）総合評価方法案について
 - （4）次期最終処分場候補地選定に係る住民説明会について
 - （5）その他
- 5 閉会

■ 配付資料

資料 5-1：前回委員会の確認

資料 5-2：第4回用地選定検討委員会議事要旨

資料 5-3：令和4年度スケジュール

資料 5-4：総合評価方法案について

資料 5-5：次期最終処分場候補地選定に係る住民説明会について

参考資料1：三次選定結果【非公開】

参考資料2：三次候補地概略施設配置図【非公開】

1. 開会

○配布資料の確認

2. 委員の紹介

3. あいさつ

○土手委員（委員長）より挨拶

4. 協議事項

(1) 前回委員会の確認について

○事務局より【資料 5-1】【資料 5-2】に基づき説明。

委員 : 意見なし

(2) 令和4年度スケジュールについて

○事務局より【資料 5-3】に基づき説明。

委員 : 現地調査及び現地視察について対象者や内容を再度説明してほしい。

事務局 : 現地調査は事務局が各候補地に対して調査を実施するものであり、現地視察は地域住民が日向市の最終処分場を視察するものとしている。

委員 : 地域住民が候補地を現地確認したいという意向を持っている場合はどのように対応するのか。

事務局 : 協議の上決定したい。候補地の視察を実施する可能性もある。

委員 : 参考資料の施設配置図について、土地所有者の了解をもらったうえで検討したものか。

事務局 : 現段階では了解をもらったものではない。

委員 : 参考資料1に記載している用地取得の見込みはどのように評価したものか。

事務局 : 地籍図から、施設配置に係る地権者の情報を整理した。その中で地権者の特定が困難となりうる課題の有無を確認した。

(3) 総合評価方法案について

○事務局より【資料 5-4】に基づき説明。

- 委員 : 三次評価時点では希少動植物の調査結果を「◎：該当しない」と評価しているがどのような調査を行ったのか。
- 事務局 : 環境省のレッドリスト等の公表資料に基づき評価した。
- 委員 : 植生自然度とはどのような指標なのか。
- 事務局 : 当該エリアの自然性がどの程度残されているかを 1～10 のランクで示したものである。数字が高いほど自然性が多く残っていることを指す。
- 委員 : 総合評価ではより詳細な評価が求められる中、三次評価と同様に三段階で評価しているため、より細分化する必要があるのではないかと。
- 事務局 : 細目で示しているとおおり、三次評価より追加的に検討・影響予測を行うこととしており、詳細な評価を行う。
- 委員 : 詳細な評価を実施することは理解できたが、これらの細目をそれぞれ評価した中で三段階評価は困難ではないか。細目に応じて評価も細かくしてはどうか。
- 委員 : 住民の理解を得やすい評価を行うべきであり、三段階評価では差異が分かりにくくなるのではないかと。
- 事務局 : 委員の協議内容を踏まえ、五段階評価を提案したい。評価基準は「A:特筆すべき優位性がある」、「B:課題は少なく対応可能である」、「C:課題はあるが対応可能である」、「D:課題は多いが対応可能である」、「E:課題が多く対応が困難である」としたい。なお経済性も五段階評価として「A:事業費が安価」、「B:事業費が比較的安価」、「C:事業費が標準程度」、「D:事業費が比較的高価」、「E:事業費が高価」としたい。
- 委員長 : 課題の多さ少なさはどのように判断するのか。
- 事務局 : 細目に応じて判断する。
- 委員長 : 大気質や水質等の評価はどのように行うのか。
- 事務局 : 環境基準の超過有無はひとつの目安となるが、周辺環境への影響度を測る観点から現状からの値の上げ下げで評価する。
- 委員 : 三次評価時では用地取得の見込みに「地権者がわからない」候補地を挙げていたが、地権者が不明な場合は候補地に取り上げられないのではないかと。
- 事務局 : 地権者に関する詳細調査は最終候補地の選定後でないと困難である。地権者不明な箇所があれば法的な手続きに則って適切に対応していく。
- 委員長 : 事務局より修正案として提示された五段階評価を採用して問題ないかと。
- 委員一同 : 異議なし。

(4) 次期最終処分場候補地選定に係る住民説明会について

○事務局より【資料 5-5】に基づき説明。

委員 : 都合上、出席できない住民に対して資料やアンケートの配布等に配慮してほしい。

事務局 : 資料は事前に配布することや、アンケートは無記名にする等、できる限り意見を頂けるよう工夫する。

(5) その他について

○事務局より説明。

事務局 : 第6回委員会は八月下旬から9月上旬を予定している。ただし、住民説明会の日程によっては前後する可能性がある。

委員一同 : 了解した。

5. 閉 会

〔了〕